

第3回

監修・講師 本村凌二

ローマ帝国

今回学ぶこと

人類史5千年のなかでも4千年間は古代だった。とりわけ地中海世界の古代史は、文字の誕生から古代末期における一神教の普及まで、それを抜きには世界史を語れないほど大きな影響を持っている。この古代の最終段階に登場したのがローマ帝国であった。圧倒的な覇権をもつ世界帝国はいかにして興隆したのか、また、その平和と繁栄はいかにして維持されたのか、それにもかかわらず空前の大帝国もやがて衰退の過程をたどることになるのか。それらの点について考えてみよう。

調べておこう・覚えておこう

- 前60年から前30年の時代について、カエサルと後継者オクタヴィアヌスの事績を年表風にまとめてみよう。
- 古代都市ポンペイはどこにあったのか、首都ローマとの関連で確認しておこう。
- キリスト教が普及する以前の時代には、どのような神々がいたのか。その名前を調べてみよう。

ローマ帝国の繁栄 ～都市国家から世界帝国へ～

古代地中海世界には千を超えるポリス（都市国家）があったと言われる。それらのなかから、なぜローマだけがたいなる覇権をにぎり世界帝国にまで成長したのか。それは古代人にとっても興味深いことだった。

そのローマは500年にわたって共和政の伝統を守りつづけたが、やがてカエサルの登場とともに独裁権力を生み出していく。その推移に注目してみよう。



ポンペイ社会の喜怒哀楽

79年のヴェスビオ山の大噴火で埋没した古代都市ポンペイは、18世紀以来の発掘によって、ほぼその全容が明らかになっている。2000年前の街並みや住居がそのまま残り、古代人の生活風景が再現できることは奇跡に近い。それらのなかには落書きもあり、そこに生きていた庶民の息吹すら感じられるのである。それらを通じて、現代人の思いとの差異を考えてもらいたい。

キリスト教の成立 ～多神教世界から一神教世界へ～

大自然のなかに超自然的な存在を感じる人間にとって、神々を崇^{あが}めることはどこの地域でもある当然の成り行きであった。だが、この多神教の地中海世界にあって、古代末期になると、唯一神を崇めるキリスト教が広く人々の心をとらえた。

ローマ帝国の下で多神教世界から一神教世界への大転換がおこったことは世界史上の大事件である。その出来事の推移に注目してみよう。

